

名 称	登別市「子ども地域交流プラザ」運営委員会
所 在 地	〒059-0014 北海道登別市富士町7丁目33番地 登別市教育委員会教育部社会教育グループ内
連 絡 先	TEL : 0143-88-1154 FAX : 0143-85-9744

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 登別市 53,418人（平成19年10月末現在）

登別市は北海道の南西部の太平洋岸に位置しており、市内には全国にその名を知られる登別温泉、カルルス温泉があり、全国から多くの観光客が訪れている。また近年ではアジア諸国を中心とする外国人観光客も増えてきている。

市内は豊かな自然環境に恵まれ、また高速道路、JR線を通じて、多くの人口を呈する札幌圏や北海道の空の玄関口といわれる千歳空港にもアクセスが容易である。

現在は登別市社会教育中期計画（平成18年度から平成22年度）の下で、青少年が健全な成長を遂げるのに必要とされる体験を充実させることと、家庭の教育力を向上させることを最重要課題として社会教育を推進している。

事業の名称、活動概要

名称 登別市「子ども地域交流プラザ」運営委員会事業

平成4年の公立学校での月1回毎月第2土曜日休業日（学校週5日制）が開始された際にその趣旨を踏まえて始められ、各中学校区で運営委員会を組織して、それぞれの地域の特色を生かした自然活動、社会体験、生活体験活動をベースとした文化、スポーツ、レクリエーション、ボランティア活動を通じて、親子の触れ合いや異年齢の子どもたちと高齢者との交流活動など地域における人と人との触れ合い活動を実践してきた。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

学校週5日制の導入に伴い、学校、家庭、地域社会がそれぞれ協力して豊かな社会生活や自然体験などの様々な学習の機会を子どもたちに提供し、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育むということを受けて、「子ども地域交流プラザ」では各

中学校区に運営委員会を設置し、それぞれの地域の特性に応じた行事を自主的に立てて組み合わせるにより、地域社会の力と学校、家庭の力を引き出すことにより地域の教育力の向上を図った。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

地域に応じた活動を行うため、中学校区を基本とする各地区に各町内会、青少年育成団体、民生委員などの代表とPTA、学校の代表らが運営委員会を組織した。また調整機関として有識者などから成る登別市「子ども地域交流プラザ」運営委員会を組織し、子ども地域交流プラザの実施についての協議を行い、ニーズに応じた行事などの検討を行った。

また各社会教育施設とも連携し、郷土資料館等の社会教育施設の開放を土曜日に行う体制を整えた。

② 活動の展開内容（活動段階）

各地区地域交流プラザ運営委員会で前年度の実績を踏まえながら当該年度の実施計画を企画し、「子ども地域交流プラザ」運営委員会で調整を図りながら、実施計画に従って行事を行った。

また各社会教育施設でも独自の実施計画を作成し、それに従い実施していった。

その中からいくつかの概要を抜粋すると、

◎稲作体験

市内にある休耕田を利用し、稲を育てる作業を通じて、自然体験を子どもたちに経験させ、収穫した米を調理し、食する作業を通じて、子どもと地域の方々との交流、親子の触れ合いを深めた。

◎地域の行事への参加

毎年7月に七夕祭を行っている地域で地区の地域交流プラザが協力し、子どもたちが行事に積極的に参加できるような体制を整え、参加することによって、子どもたちと地域の方々の交流を促進させたり、また、地域の人々と一緒に公園の清掃作業や草刈り作業等を行った。

そして、古くから各家庭に伝わる餅つきなどを地域で行い、それに地域交流プラザが参加することによって、地域の人々との交流し、日本の伝統についても理解を深めた。

◎地元の産業に対する理解

市内にあるさけ・ますのふ化場を見学し、その仕事に携わる方の説明を受けながら、ふ化させる実際の作業の一部を子どもたちに体験させることによって、地域の産業についての理解を深めた。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

各地区の子ども地域交流プラザ運営委員会で、各町内会や青少年育成団体、民生委員等の代表とPTA・学校側で意見を交換することによって各地域での企画の方向性についての確認を行うことができた。

事業の成果と今後の課題

体験活動やボランティア活動を通じて地域の様々な年代の人と子どもたちが交流を深めることができるとともに、親子の触れ合いや交流の場を作ることによって、子どもたちに有意義な休日の過ごし方を身に付けることができるようになっていった。

今後はニーズに応じて事業の内容の拡大を図りながら、参加者の輪を広げて活動を続けていくとともに、子どもたちの健全育成に努めていくことが、より一層重要になってくる。



稲作体験



草刈



採卵体験



餅つき体験

執筆者職・氏名：登別市教育委員会教育部社会教育グループ主事 坂本 健二

コーディネーターからの一言コメント

各中学校区に「子ども地域交流プラザ運営委員会」を組織し、地域の特色を生かした活動を実践している。それは、身近な町内会、青少年育成団体、民生委員、P T A、学校とのより緊密な連携につながっている。

(中根 惇子)